

第13年度事業(2002年度)研究グラント受賞者

凡例(順番は代表研究者の姓のアルファベット順)

代表研究者 所属 代表研究者の国籍 研究チームの人数・国籍 研究名
日本人研究者がいる場合氏名・所属

1. ALVAREZ DE TOLEDO Guillermo セビリア大学生理・物理学部 スペイン 4人(スペイン2名、ドイツ、イギリス) シナプスにおけるエンドサイトーシスに關与する分子的事象の視覚化
2. BESSON Mireille 国立科学研究センター(仏 CNRS) フランス 4人(フランス、ドイツ、ベルギー、カナダ) 言語と音楽の特異性の問題への学際的アプローチ
3. BORG-GRAHAM Lyle J 国立科学研究センター(仏 CNRS) 米国 3人(米、イスラエル、ノルウェー) 視覚皮質におけるシグナルとノイズの生物物理学
4. COHEN Stephan EMBL(欧州分子生物学研究所) カタ 4人(カタ、デンマーク、イタリア、日本) 糖転移酵素によるリガンド:受容体結合制御機構
安友康二 徳島大学医学部病態予防医学講座(生体防御医学分野)
5. CONTRERAS Diego ペンシルバニア大学薬学部(米) スペイン 3人(スペイン、ベルギー、スペイン) 皮膚シナプスの可塑性に対する穏やかな振動のインパクト
6. DE CANILLI Pietro エール大学細胞生物学部(米) イタリア 4人(イタリア、スウェーデン、イタリア、アメリカ) エンドサイトーシスの分子機能
7. DISMUKES G. Charles プリンストン大学化学学部(米) アメリカ 3人(アメリカ、ロシア、アメリカ) 地球上の酵素の起源:光合成による水の酸化の始まりと進化
8. ELLIS-DAVIES Graham MCPハーンマン大学薬学・生理学部(米) イギリス 3人(英国2人、日本) 2光子励起ケイジド試薬を用いた伝達物質受容体の機能的画像解析
河西 春郎 岡崎国立共同研究機構生理学研究所(愛知県岡崎市)
9. FINE Alan ダルハウジー大学薬学部(カタ) カタ 3人(カタ、スイス、日本) シナプス機能と可塑性における、シグナル伝達の時空間的制御
宮脇敦史 理化学研究所脳化学研究センター(埼玉県和光市)
10. FINZI Laura ミラノ大学生物学部(イタリア) イタリア 3人(イタリア、アメリカ2人) 遺伝子発現の制御におけるDNAスーパーコilingとDNA屈曲タンパク質の相互作用

- 1 1 . HENSH TAKAO 理化学研究所脳化学研究センター (日本) 米国 3人 (アメリカ2名、フランス)
一次視覚経路発達の特異性と高度化
- 1 2 . 石野良純 技術研究組合 生物分子工学研究所分子機能研究部細胞周期グループ (大阪)
日本 4人 (日本2人、アメリカ、フランス) アーキア (古細菌) におけるDNA複製開始の分子機構解析
原田芳江 東京都臨床医学総合研究所
- 1 3 . IZPISUA-BELMONTE Juan Carlos サルク生物学研究所 (米国) アメリカ 3人 (アメリカ、ブ
ザール、オーストリア) 脊椎動物における左右対称性分裂に対する生物学的、数学的、マルチスケール
的アプローチ
- 1 4 . JEGGO Penelope 医療評議会細胞突然変異研究ユニット (英) イギリス 3人 (イギリス、
米国、イタリア) 非相同末端結合DNAの学際的研究
- 1 5 . KIEHEN Ole カリフォルニア研究所神経学部 (スウェーデン) デンマーク 4人 (デンマーク、ルウェー、アメリカ、
カナダ) 移動運動を制御する神経回路の遺伝子学的解析
- 1 6 . MANSUY Isabelle ETH (スイス技術センター) 細胞生物学研究所 フランス 4人 (フ
ランス2人、イギリス、ドイツ) LTPと記憶における初期遺伝子の機能的解析
- 1 7 . MELANCON Paul アルバート大学 (カナダ) カナダ 3人 (カナダ、フランス、ドイツ) 蛋白質
トラフィックの制御: 統合的分子的足場としての巨大ARF - GEFs
- 1 8 . MONTELL Denise ジョンズホプキンス大学医学部 (アメリカ) アメリカ 3人 (アメリカ、日本、オ
ーストリア) E型カドヘリンの細胞表面ダイナミクスによる細胞の形態形成運動の制御
楠見明弘 名古屋大学大学院理学研究科生命理学専攻
- 1 9 . NISSEN Poul アーhus大学分子構造生物学 (デンマーク) デンマーク 4人 (デンマーク2人、アメリカ
2人) コウポリボゾームの構造的な研究
- 2 0 . ROBINSON Carol ケンブリッジ大学化学学部 (イギリス) イギリス 4人 (イギリス、日本2人、
フランス) 一時的及び安定的な巨大分子集合体の研究: 細胞活性の意義
武藤 裕 理化学研究所タンパク質構造・機能研究グループ標識技術高度化研究チーム
長井 潔 英国MRC (医学研究評議会) 分子生物学研究所
- 2 1 . SPUDICH John テキサス大学医学部 (アメリカ) アメリカ 2人 (アメリカ、イスラエル) プロテオロ
ドプシンの生態学的多様性と適応
- 2 2 . TORRE Vincent ISAS (イタリア) イタリア 3人 (イタリア、ドイツ、イギリス) サイクリックヌク

レオチドのゲートチャネルの構造的・分子メカニズム

23. UZE Gilles 国立科学研究センター(仏 CNRS) フランス 3人(フランス、ドイツ、イスラエル)
タイプ 型インターフェロンへの差別的応答：サイトカインネットワークの分子モデル

24. WAXHAM Neal テキサス大学医学部(アメリカ) アメリカ 2人(アメリカ、ドイツ) 単一分子レベルでのシナプスシグナリング

25. WERKER Janet F プリティッシュコロロンビア大学(カナダ) カナダ 5人(カナダ、アメリカ人、イリア、スペイン) 発生中の脳における言語の副体系の可塑性

26. WILMANN Matthias EMBL(欧州分子生物学研究所) ドイツ 3人(ドイツ、スイス、カナダ)
POU因子による各種転写の基礎となる分子構造

【若手研究者部門】

27. 尾藤晴彦 京都大学大学院医学研究科高次脳科学講座神経細胞薬理学教室 日本 3人
(日本、イギリス、アメリカ) 新規イメージング法による神経回路の活動依存性変化の可視化

28. BLADER Patric 国立科学研究センター(仏 CNRS) イギリス 4人(イギリス、アメリカ2人、カナダ1人)
遺伝子制御領域の比較機能的解析を通じたテレンセファリン進化の解明

29. DEUERING Eike フライブルグ大学生物化学分子生物学研究所 ドイツ 2人(ドイツ、クロアチア)
タンパク質合成におけるリボゾームに付随するシャペロン：構造的機能的洞察

30. DIECI Giorgio パルマ大学生物化学・分子生物学部 イタリア 3人(イタリア、アメリカ、日本)
ゲノム構築におけるRNAポリメラーゼIII転写系の機能解析
小林武彦 基礎生物学研究所

31. FOURMY Dominique 国立科学研究センター(仏 CNRS) フランス 3人(フランス、インド、アメリカ)
リボゾーム機能に必須の分子運動

32. GALLEGOS Maria-Trinidad CSIC(スペイン) スペイン 3人(スペイン、日本、中国) グラム陰性細菌における溶媒・抗生物質耐性発現の制御
渡辺一哉 株式会社海洋バイオテクノロジー研究所(釜石市)

33. HSIEH-WILSON Linda カリフォルニア工科大学(アメリカ) アメリカ 3人(アメリカ、日本、ドイツ) 神経発達を促進する分子機構の研究
西 昭徳 久留米大学医学部生理学第一講座

34. JARVIS Suzanne 独立行政法人産業技術総合研究所ナノテクノロジー研究部門(つくば) イギリス 3人(イギリス2人、オランダ) ナノメカニカル・プローブによる生体機能における水性環境の役割の解明

35 . LYGEROU Zoi パトラ大学薬学部 ギリシア 3人(ギリシア、ドイツ、日本)

S期開始制御：複製開始点におけるライセンス化因子のダイナミクス
西谷 秀男 九州大学大学院医学研究院 分子生命細胞工学

36 . ROELSEMA Pieter アムステルダム大学ビジュアルシステム分析科 オランダ 3人(オランダ、フランス、ベルギー) 視覚皮質領域の部分領域間の相互作用

37 . WATERMAN-STORER Clare スクリプス研究所 アメリカ 3人(アメリカ、スイス、ドイツ) 細胞骨格ダイナミクスが細胞運動を調整する方法